

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第24週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第24週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第24週（令和4年6月13日から令和4年6月19日まで）

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）流行性角結膜炎 3）突発性発しんでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.00人と前週（5.97人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.44人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～「り患後症状」について～”について取り上げました。

新型コロナウイルス感染症は、り患後に様々な症状を認めることが分かってきました。国内で行われた調査によると、診断後3か月時点では、女性に高頻度に症状がみられましたが、男女の差は経過とともに小さくなりました。若年者には脱毛、嗅覚障害、頭痛が多く、高齢者には筋力低下、咳、関節痛が多い傾向が認められました。り患後症状の中には、発症から12か月を過ぎても症状が残る場合もあり、症状が1つでも続くと睡眠障害や不安から、生活の質を下げることがあります。多くは経過とともに軽快する傾向にあるとされていますが、気になる症状が続く場合は医療機関への受診をお勧めします。

り患後症状は、新型コロナウイルス感染症が軽症であってもみられますので、基本的な感染対策を徹底し、新型コロナウイルスに感染しないようにしましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

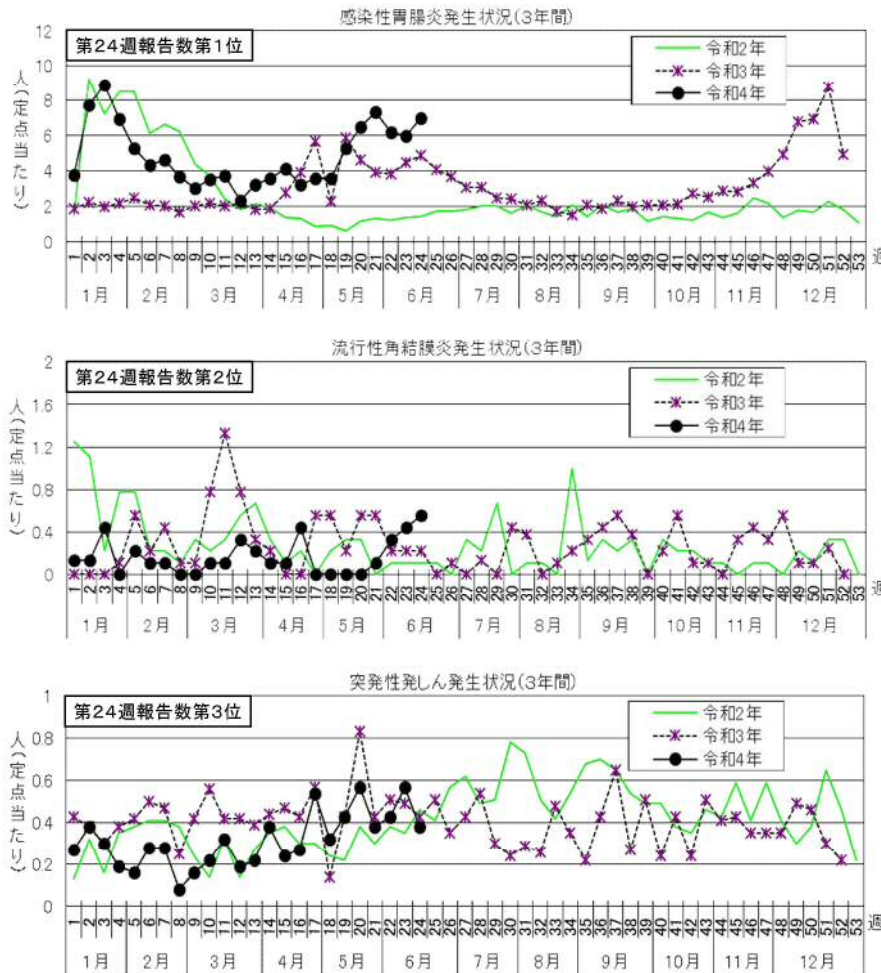
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月13日（月）～令和4年6月19日（日）〔令和4年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.00人と前週（5.97人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.44人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

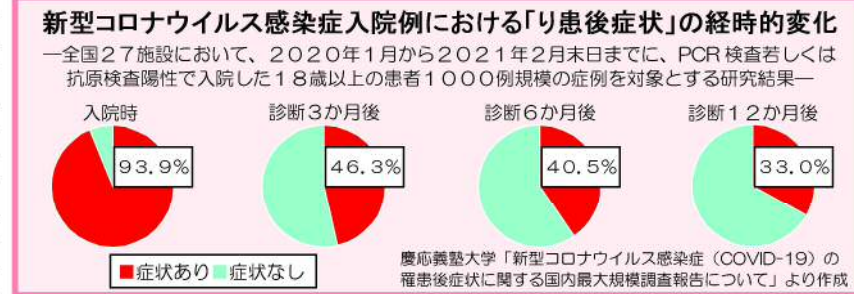


新型コロナウイルス感染症～「り患後症状」について～

新型コロナウイルス感染症は、り患後に様々な症状を認めることが分かってきました。国内で行われた調査によると、診断後3か月時点では、女性に高頻度に症状がみられましたが、男女の差は経過とともに小さくなりました。若年者には脱毛、嗅覚障害、頭痛が多く、高齢者には筋力低下、咳、関節痛が多い傾向が認められました。り患後症状の中には、発症から12か月を過ぎても症状が残る場合もあり、症状が1つでも続くと睡眠障害や不安から、生活の質を下げることがあります。多くは経過とともに軽快する傾向にあるとされていますが、気になる症状が続く場合は医療機関への受診をお勧めします。

（詳細は川崎市ホームページをご覧ください。 <https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000134505.html>）

り患後症状は、新型コロナウイルス感染症が軽症であってもみられますので、基本的な感染対策を徹底し、新型コロナウイルスに感染しないようにしましょう。



- 代表的な「り患後症状」**
- 全身症状
倦怠感、関節痛、筋肉痛
 - 呼吸器症状
咳、喀痰、息切れ、胸痛
 - 精神・神経症状
記憶障害、集中力低下、不眠、頭痛、抑うつ
 - その他の症状
味覚障害、嗅覚障害、動悸、下痢、腹痛